

大きさ

で見る

十勝川インフォメーションセンターにあるイトウの魚拓（132cm）



アイヌ語名は（ ）内に

川の魚の大きさ比べ

もちろん、どんな魚も生まれた時は小さく、**だんだん**と成長していきます。

ここでは「^{やまけい}山溪カラー名鑑^{めいかん} 日本の淡水魚^{たんすいぎょ}」（川那部浩哉・水野信彦 編・監修 ^{へん}山と溪谷社^{けいこく} 1989）に記載してある全長^{きさい}を参考に、かなり大きくなった場合の大きさを示してあります。

（小さめのもののシルエットを拡大しているので、実際のバランスとは若干異なる場合があります）

※全長：体の最先端から再後端（尾ビレも含む）の長さ
（体長は尾ビレを含まない、吻端から脊椎骨末端まで）

ウグイ（オトウヤッケ、スブン）
30cm

イトウ（チライ）150cm

フクドジョウ（チチラカイ、オンネチェブケウスツ、
レクシチュッポ）20cm

ハナカジカ（スマプクンペ、ウッカコリペ）
15cm

ワカサギ（シルコポブ）
14cm

ヤマメー河川残留（ポンイチャニウ、イチャンコツ）
30cm

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」 川那部浩哉・水野信彦 編・監修
山と溪谷社 1989
「北海道の淡水魚」 稗田一俊 北海道新聞社 1984